

# 京都華頂大学現代家政学部・現代家政学科

## 1. 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

現代家政学科では、学部の学位授与の方針に基づき、以下の資質・能力を総合的に身に付け、知識基盤社会の発展に貢献できる力を備えた者に学士(家政学)の学位を授与する。

- (1) 知識・理解
  - ・現代の家族・家庭、地域、社会の諸問題に関する専門的知識を有している。
  - ・人間の一生(ライフステージ)における各段階の多様な生き方に関する幅広い知識を有している。
- (2) 汎用的技能
  - ・会話、文章を場面や目的に合わせて適切に使用することができる。
  - ・自然や社会的事象について、統計等を用いて分析し定量的に理解できる。
  - ・情報通信技術(ICT)を活用した情報の収集・分析によって、情報リテラシーを身に付けることができる。
  - ・フィールドワークや事例研究により、情報や知識を深めるとともに定性的に理解できる。
- (3) 態度・志向性
  - ・課題解決のために、社会のルールに従い自らを律して、自己の良心に従って主体的に行動できる。
  - ・相互理解による他者との協調を進め、共通する目標のために協働できる。
  - ・知識や技能等を活かして社会に貢献し、市民としての責任を果たすことができる。
  - ・生涯を通じて学習する意識を持ち、その基礎を身に付けることができる。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
  - ・獲得した知識・技能、態度等を総合的に活用して、主体的に企画・立案し、地域、社会の課題解決に貢献する能力を有している。

## 2. 教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

現代家政学科では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、全学部共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については次のように定める。

### 1. 教育課程・授業・学修方法の在り方

- (1) 知識・理解
  - ・現代の家族・家庭、地域、社会の諸問題やライフステージに関しての知識・理解のために、学部共通の基幹科目を置く。
- (2) 汎用的技能
  - ・会話・文章表現について学ぶために、基本科目に英語コミュニケーション、日本語表現法などの科目を置く。
  - ・自然や社会的事象について理解し、情報リテラシーを身に付けるために、基本科目に情報処理などの科目を置く。

- ・実践的な知識を獲得するために、産官学連携実践、社会の理解に関する共通科目や、資格・免許に関する演習科目を置く。
- (3) 態度・志向性
- ・課題解決のための主体性を獲得するために、専門科目群を置き、各専攻に応じた必修科目を置く。
  - ・他者との協調、協働を学ぶため、総合基礎演習や現代家政学演習などの科目を置く。
  - ・社会のルールや倫理について学ぶために、学科選択科目に男女共同参画社会論、多文化共生論などの科目を置く。
  - ・知識や技能等を活かして社会に貢献するため、産官学連携実践、キャリア教育、資格・免許の実習科目などを置く。
  - ・生涯を通じて学習する意識を身に付けるため、生活・家族・家庭・社会を理解する共通科目を置く。
- (4) 総合的な学習経験と創造的思考力
- ・獲得した知識、技能等を総合的に活用し、主体的に問題意識をもって計画・立案したことに取り組むため、卒業演習(論文を含む。)の科目を置く。
2. 学修成果の評価方法
- ・講義、演習、実習をとおして知識・理解を深め、諸問題を発見・分析・考察した上で、課題解決のための提案能力が備わったかを筆記試験・レポート・口頭発表等により評価する。
  - ・GPAによる客観的な評価基準を適用する。

### **3. 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)**

- (1) 知識・理解
- ・高等学校等で履修した教科(国語、外国語、家庭等)の学習内容を理解している。
- (2) 思考・判断
- ・これまでに身につけた知識等から、家族・地域・社会の諸問題に気づき、その背景や自らの生活とのつながりを考えることができる。
- (3) 関心・意欲・態度
- ・より良い生活を創造し、社会全体を発展させたいという意欲があり、生活や社会の問題を発見・理解するために主体的に学びたいと考えている。
- (4) 技能・表現
- ・他者と積極的に関わることができ、自分の考えを口頭・文章等によって説明することができる。